

平成18年度 コスモスセミナー講演会 実施記録

アークガーデンから発信する「花のある暮らし」

～これからの花のまちづくりを考える～



平成19年3月

財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

はじめに

ガーデニングなどの花と緑に関する市民活動は、都市のうるおいや景観を良くし、豊かで暮らしやすいまちづくりに大変役立っています。また、これからの大きな課題である、高齢化社会、こころの健康の問題、環境の改善にも役立つと考えられます。活動されている方々にとっても、自然とのふれあいや仲間同士のコミュニケーションの楽しみ、活動でのやりがい感など、都市生活の楽しさや生きがいの素（もと）となっていることでしょう。しかし一方では、グループや組織をいかに運営していくか、園芸やガーデニングの活動をいかに広げていくかなど、さまざまな課題や悩みも生じているのではないかとことから、今回の講演会を企画しました。

まず始めに、東京港区の「アークガーデン」など多くの優れた活動をされている杉井明美さんに講演をいただきました。その後、2名の活動代表者から事例を報告していただき、意見交換をしながら、これからの都市緑化やガーデニングの活動のあり方について考えました。この講演会の開催により、参加された方々が地域での今後の都市緑化やガーデニング活動の糧（かて）となり、今後さらに活動の展開が進むきっかけになることを期待しています。

開催概要

- 名 称： 平成18年度 コスモスセミナー講演会
アークガーデンから発信する「花のある暮らし」
～これからの花のまちづくりを考える～
- 日 時： 平成19年3月11日（日） 13時30分～15時30分
- 会 場： 大阪市立中央図書館 5階 大会議室
- 講 師： 杉井明美（園芸家）
- 主 催： 財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
- 共 催： 大阪市立中央図書館
- 後 援： 農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局
大阪府、大阪府教育委員会、大阪市
- そ の 他： 造園 CPD 認定プログラム（2単位）
- 参加者数： 175名（参加登録者213名）



アークガーデン(六本木アーキヒルズ)
から発信する
「花のある暮らし」

これからの花のまちづくりを考える

日時 平成19年3月11日(日) 13:30～15:30

【開場/13:00】

会場 大阪市立中央図書館 5階大会議室

講師 杉井 明美 (園芸家) 定員 300名【先着順。後日参加証をお送りします。】



Akemi Sugii 杉井明美 (スキアケミ) 園芸家

Profile

千葉県の花き生産農家の次女として生まれる。女子美術短期大学の服飾学科を卒、VANチャケットに入社し、グリーンハウス404の店長を経てフリーになる。ヒトにとって花や緑は必須のものという信念のもと、1993年に(有)風のみどり塾を設立。1996年にサントリーホール屋上の改植工事を受注して以降、都市緑化にも独自のセンス、手法で取り組む。制作、維持管理する庭として、六本木アーキヒルズにあるアークガーデンが有名だが、そこには植物の個性を活かしながら、四季折々の風景を見せる都市空間を見いだすことができる。現在、アークガーデンニングクラブ及び六本木ヒルズガーデンニングクラブの専任ガーデナーやNHK「趣味の園芸」の講師として活躍するほか、(財)都市緑化技術開発機構理事、(社)園芸文化協会理事、(社)日本家庭園芸普及協会技術顧問、千葉大学園芸学部非常勤講師(園芸装飾論)などに就任する。ガーデニング関係の著書も多数。



参加無料

申込方法

申込希望の全ての方について以下の項目と「杉井明美 講演会」を記入の上、はがき、FAX、インターネットからお申し込みください。
①氏名(ふりがな) ②年齢 ③郵便番号・住所 ④電話番号
※お申込みいただいた個人情報は厳重な管理の上、当講演会運営以外の目的で使用することはありません。

申込先・問合せ先

(財)国際花と緑の博覧会記念協会「講演会」係
■はがき 〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136
■TEL 06-6915-4516 ■FAX 06-6915-4524
■インターネット [HP] <http://www.expo90.jp/>
[E-mail] kikaku-fg@expo90.jp

主催/ (財)国際花と緑の博覧会記念協会 共催/ 大阪市立中央図書館
後援/ 農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、大阪府教育委員会、大阪市 (予定)
※この講演会は造園CPDのプログラムとして認定されています。



開場案内図

大阪市立中央図書館
(5階大会議室)

大阪市西区北堀江4-3-2
TEL:06-6539-3326

アクセス

地下鉄千日前線・長堀鶴見
緑地線「西長堀」駅下車7号
出口すぐ

講師プロフィール

杉井 明美 (すぎい あけみ) 園芸家

千葉県の花き生産農家の次女として生まれる。女子美術短期大学の服飾学科を卒。VAN ジャケットに入社し、グリーンハウス404の店長を経てフリーになる。ヒトにとって花や緑は必須のものという信念のもと、1993年に(有)風のみどり塾を設立。1996年にサントリーホール屋上の改植工事を受注して以降、都市緑化にも独自のセンス、手法で取り組む。制作、維持管理する庭として、六本木アークヒルズにあるアークガーデンが有名だが、そこには植物の個性を活かしながら、四季折々の風景を見せる都市空間を見いだすことができる。現在、アークガーデニングクラブ及び六本木ヒルズガーデニングクラブの専任ガーデナーや、NHK「趣味の園芸」の講師として活躍するほか、(財)都市緑化技術開発機構理事、(社)園芸文化協会理事、(社)日本家庭園芸普及協会技術顧問、千葉大学園芸学部非常勤講師(園芸装飾論)などに就任する。ガーデニング関係の著書も多数。

事例紹介者プロフィール

海原 本 (うなばら すすむ)

山田池公園花のくらぶ会長 ガーデニングボランティア養成講座「花の楽校」2期生

「花のくらぶ」は平成13年から活動を開始した公園ボランティアで、現会員は34名。「花の楽校」卒業生を中心に、学んだ知識や技術を活かしながら活動している。枚方市の府営山田池公園南地区にある「コテージガーデン」「クイーンズランドガーデン」が活動拠点で、様々な種類の花づくりを、育苗から花壇のデザインまで行っている。また活動の輪を広げるために、ボランティア養成講座の自主運営も手がけるなど、総合的な活動を実践している。



松浦 艶子 (まつうら つやこ)

此花区緑化リーダー連絡協議会会長 大阪市グリーンコーディネーター1期生

此花区高見連合振興町会女性会会長 此花区選挙管理委員会委員長代理

淀川河口に広がる此花区在住の、地域に根ざした緑化活動を展開する緑化リーダーが集まって、平成14年に此花区緑化リーダー連絡協議会を結成。現在約100名が所属。これまで種まき講習や活動紹介などの普及啓発活動を行ってきており、現在は「区役所前花壇」「フレタスガーデニング正蓮寺川」「高見ジャスコ前花壇」などで緑化活動を展開している。



第一部／講演要旨

アークヒルズは今から20年前に大開発された、ホテル、コンサートホール、商業ビル、飲食店などがある場所です。私が呼ばれたのは、10年目のリニューアルの時期でした。既に常緑樹を中心に緑化されていましたが、都市の中の緑はどうあるべきかと考えたときに、心に作用する緑、身近に感じ、ふれあい、携わる緑が少ないと思いました。

そこで、骨格となる常緑樹の中に、季節の景色をつくろうと草花を植え始めました。その時、そこに関わりのある方には是非参加していただいて、みんなで作っていきこうと、アークガーデニングクラブをつくりました。

このクラブは会費を払って人の庭をきれいにしているのですが、今では100人を超えるメンバーがいます。緑と関わる楽しさや、緑を皆さんに提供する大事さは、自分の庭だからということを超えていると思います。

活動は月2～3回、土曜日の午前中で、40～50の方がいらっしゃいます。花殻を摘んだり、植えたり、メンテをしたりしています。出てくる方は固定化していますが、年に何回かの発表会には100人くらいが集まってきて、いろんなことをやっています。

アークヒルズの中には7つの庭があり、それぞれにテーマを持たせて、そこならではの景色をつくっています。そこに求められているもの、その場所が担っている役割や力を植物を使って表現するのが、造園や園芸の仕事ですから、テーマを持つということがすごく大事だと思っています。

六本木ヒルズガーデニングクラブでも、第二土曜と第四日曜に活動しています。六本木ヒルズでは、道路の上に架かっている橋の上にブドウを植えてあります。草花のほかにも縦横無尽に、いろんなものを使っている一例です。



目的に合わせていけば、すべてが花でなくていいんです。カラーリーフや常緑のものなどでテラスをつくることもできます。野放しで形が崩れず、細かな手入れが要らない植物も、お金がないときにはいいと思います。人工地盤ではユーカリやシルバーリーフなど、乾燥に強いものもいいでしょう。現実にはオリーブやハ

ーブ、常緑の果樹、ブドウ、などを用いて、地上100mのところを緑化しています。

花だけではなく、野菜とか果樹とか、いろんなものを使うのが大事です。花壇は草花ばかりで構成することが多いですが、野菜や果樹という分類は人間の都合だけですから、もっと植物全体でとらえて、縦横無尽に使ったらいいと思います。

アークのメインガーデンには葉ボタンを植えていて、特別なものは使っていません。皆さんが日常的にお花屋さんで見えるものや、誰でも手に入れられる植物です。花がいっぱいないといけないということではなく、春には春の景色、秋には秋の景色、冬には冬の景色という、季節の顔が大切なのです。冬は地面や裸木が見えます。それが冬の姿であり、花があまり多いと違和感を感じます。土が黒々見えるのが冬の魅力であり、土のありがたさが一番分かりやすい季節です。

私は、公園の花壇のように、ある日突然春花壇とか、ある日突然夏花壇ということはありません。徐々に景色が変わっていくようにしています。それが自然なので、全体の3割弱を入れ替えて、後は宿根草や多年草などで構成し、徐々に変わっていくようにしています。花木や低木も楽しい花材です。草花ばかりで全部を一斉に入れ替えることはしません。夏に植え替えるのではなく、植えているものが夏になると、草丈が伸びてきて顔を見せるようにしています。

ルーフガーデンは、サントリーホールの上にある人工地盤で、階段状に3段の庭になっています。上段は、上から見てもいいように、三角形を8つ組み合わせた花壇枠を設けて植物を植えました。上から見て寂しくても、近づくと球根の芽が出ていたりします。

花壇をつくる時に色は大切です。色は最初にものを認識する要素なので、色をコントロールするのは大事なことです。ガーデニングは人工的なことなので、色を計算すると楽にできます。ここでは、対面する三角形を、白・ブルーのコーナーとか、赤・ピンクのコーナーとか、黄色・オレンジのコーナーとか、対面するのを少し同じ色目にしていきます。

屋上は風が強いので、病害虫が来ません。所々にうどん粉病とナメクジが出るくらいで、バラのところも定期的な消毒はしていません。茂ってくると密植状態になってきますが、近寄ってみるといろんなものが植えてあるのがアークガーデンの特徴です。



花のエリアは、枕木を入れてレイズドベッドにしてあるので、水はけがよく元気に育っています。葉ボタンはお正月にとってしまいますが、葉ボタンはとてもいい植物で、冬の顔と春の顔が全然違います。花壇にはいろんなものを植えますが、一番足りないのは立体感なんです。よく花を植えてあるのを見ますが、ベターツとしています。春は立体的なものが少ないので、葉ボタンを5月くらいまで残しておくといいです。皆さんの花のある空間も、立体感を出していくといいと思います。アークの庭は狭くて小さいですが、いろんなものを入れると立体感も出てくるんです。パンジーだけだとこんなふうにはならない。立体感はとくに強調していいと思います。

外周の木は10年経っていますが、土厚は70～80cm、真ん中の草花の部分は30～40cmです。ここは人工地盤ですが普通の土を乗せています。個人的には普通の土の方を信頼してるので、人工土壌でない方がいいです。この環境で生きる植物のすごいところは、「ここで死にたくない」という生命力です。人間は移動できるんですけど、植物は与えられたところで頑張るといのがすごいところです。

夏はユリの向こうにモミジアオイが立ち上がり、フロックスもありますが、みんな植えっぱなしの宿根草です。色が少なくなって緑が多くなり、緑の合間にちらちらと見えるのが夏の姿なんです。里芋の葉っぱを効果的に使うと景色がしまってきます。コリウスもいい素材です。夏は花が少なく、手入れが大変なので、葉物の元気なものを使うと手入れが楽だし、気持ちがいいです。植物も自分も気負わない方がいい。無理をしないで気楽につき合うこと。その時に元気なものをよく使います。

立体感という意味ではフウセンカズラなど、蔓性のものをもっと使うといいと思います。普通は家の周囲などでフェンスに這わしたりしますが、庭の中心に持ってくるいいと思います。庭が狭くて木が植えられないときなど、這わせるのではなく立ち上げるという使い方をすると立体感が出せます。



秋にはススキ、虎の尾、オミナエシなども使います。私は植物を和風・洋風に分けないので、ススキがあるから和風になるとは思っていません。植物はやってみないと分からないことがたくさんあり、本に書いてあることを超えた適応力を持っているような気がします。新しい景色をつくるには、チャレンジが必要です。

ススキのように旺盛な植物は、庭を造る上ではコントロールが必要です。何もかもつくりすぎてはいけませんが、バランスよく見せるための工夫が園芸や造園の仕事。ススキは3年に1度、分けています。

中段はサークル花壇を3つ設けてあるだけで、鳥の水飲み場があって、後はコンテナで構成しています。植物は色々使えます。野菜は食われるために生まれてきたという図太さ、葉の色が魅力です。大きな面積をカバーし、力強さを表現してくれます。

下段はローズガーデンですが、一貫して手のかからないように、日本のバラを中心に、お嬢様じゃないバラ、ノイバラ、ハマナス、モッコウバラなど、野放図で良いものを植えてあります。周りが直線的、人工的な線だからこそ、すごく自然が浮き上がってきます。都市の中の自然はつくっていく自然ですから、大きさではなく質の問題です。

フォーシンズガーデンには、日本人の感性で育まれてきた日本の植物を使っています。しかし日本庭園ではなくて、植物で日本を表現したいと思ったんです。皆さんは日本の植物は地味だとか、山野草は難しいとか思っていますが、日本の植物を使うべきです。狭い国土にたくさんの植物があるという意味では日本という国はいい国ですが、日本の良さを感じられてないんです。皆さん自身がそういう意識が薄いと思います。足下を見つめればいいものがいっぱいあって、気候風土や感性に合っています。どうも海外から評価されないと使えない。それは悔しいじゃないですか。

雑木といいわれる木でも良いものがいっぱいあります。とてもきれいで、季節感という意味では大変な力を発揮してくれます。季節感は大切で、あまりコントロールしたくないという意味では、花殻も秋は摘みません。花殻が付いているのが魅力で、花殻や実は残しておきます。

これからは、植物があるところを使っていく時代です。今の子どもは感性の幅が少ないと思います。植物とふれあうことが、いろんな感情を呼び起こしてくれるんです。ふれあう場をつくることは大人の責任だと思っています。

個人の趣味をやるだけで社会貢献できるのは、園芸くらいしかありません。植物を使ってみんなで幸せになれるのですから。



第二部／活動報告とディスカッション

田中（司会・花博記念協会）： 第一部では杉井先生から、人は植物が好きだ。そして花の活動をすることによってコミュニティができる。そしてそれがまちの顔につながり、社会貢献もできる。ということで、花のボランティア活動は意義深いというお話をいただきました。第二部では、花と緑に関する活動をされているお二人に、活動事例をご報告いただき、杉井先生とともにディスカッションを行います。それでは海原さんからご報告下さい。

海原： 山田池公園は枚方市のほぼ中央にあります。山田池は約1200年前に農業用の池としてつくられたものです。公園のほぼ中央を市道が走り、その上方を北地区、下方を南地区と呼んでいます。北地区は、花菖蒲や、あじさい園、梅林、桜並木など、花木や樹木が植栽された地区です。南地区は自由広場、芝生広場、芝生の丘、バーベキュー広場など、広々とした遊びの広場を経てクイーンズランドガーデン、さらにパークセンターを経てコテージガーデンがあります。コテージガーデンには、今春、28個のコンテナに700株のパンジーを、クイーンズランドガーデンには、宿根草や多年草の植えられた不定形な十数個の花壇に、4000株の一年草を定植しました。

美しい花壇、心地よい空間、家族や友人とまた来たくなるような花壇づくり、種まきと育苗、コンポストによる堆肥づくりを通して、無理をしない、頑張らない花壇づくりを心がけています。

花のくらは、平成13年から3年間、大阪府によるボランティア養成講座が開催され、修了生によって平成14年に誕生しました。平成17年と18年には花のくらはが自主養成講座を開催しました。さらに会員確保のための活動、気軽に市民の方々に参加していただけるような、花のくらはづくりを目指します。ぜひ一度、山田池公園にお越し下さい。できればパークセンターにお寄りいただき、感想やご意見をお聞かせ下さい。

花のくらはは誕生6年ですが、それまでに10年も20年も前から、土作り、花作りを、あるいは色々なところでボラ



ンティア活動をしてこられた会員の方々の努力、顧問の遠藤尚美先生、大阪府土木工区の方々、管理事務所の皆さんの協力と指導があつての花のくらぶであることに感謝の心を伝えて、山田池花のくらぶの報告とします。

松浦： 私は、平成13年度から始まったグリーンコーディネーターの養成講座に此花区から参加し、1期生として終了しました。翌年4月には「此花区緑化リーダー連絡協議会」を設立し、ほぼ5年が経過しました。

現在、区の活動拠点は大きく2箇所あります。1つは此花区役所前の、約110㎡のスペースです。巨木が天を覆う陰気な庭でしたが、二見恵美子先生のご指導で全面的に手を入れ、中木・小木・草花で明るくなりました。また、庁舎正面のスロープ沿の花壇は、季節の明るい色彩の草花でデザインしています。玄関には10地域が半年交替で寄せ植えを飾り、来訪者のもてなしと自宅緑化の啓発活動を行っています。



2つめはフレタスガーデニング正蓮寺川です。堤防に不法投棄が山積みされていた場所を、平成16年、西大阪治水事務所と協力し、河川の美化と、花と緑の美しいまちづくりを目的に、アドプト協定を結びました。長さが150mの花壇に、桜10本を中心に季節の草花をデザインし、近くの障害者施設のメンバーと一緒に植え替え作業を行っています。

私の住む地域では、高見緑化委員会がジャスコ前花壇を中心に活動しています。汚くて気になっていたところをお店と話し合っ、地域の力で草抜き・土地改良を行い、4月には800本のチューリップが見事に咲きました。小学生の登下校時に合わせて、水やりや花殻摘みを行い、子どもたちの見守りを心がけています。

私たちの活動は、緑化リーダー、緑化ボランティアを中心に、地域の企業を巻き込んだ活動や、地域振興会の理解、地域女性会の協力、行政の後押しなど、コミュニケーションと連携に支えられています。今後の活動として、育苗から花を咲かせて皆さんに見ていただく一連の営みの中で、経費の問題や緑化リーダーの育成、緑化ボランティアの確保など、高齢化が進む中で若い人への啓発活動が大きな課題だと考えています。

田中： お二方とも多彩な活動をされていますね。松浦さんのところの活動は、此花区の顔になっておられますし、海原さんのところは、山田池公園の顔になっていただいています。ほんとに貴重な活動、力強い活動がなされていると思います。



杉井： いろんな考え方があるでしょうが、もう少し植物の幅を広げて、もっと違う植物を使ったらいいと思います。宿根草など植え替えなくていいものをもうちょっと使い込むとか、そこならではの景色には、関わった人の趣味ややり方が顔になってきます。写真を撮ったらどこも同じじゃなくて、その顔になるものを植物を使って表現できたらいいですね。

田中： 松浦さん、海原さんとも、活動のリーダーとして成果を上げてこられました、リーダーとして心がけていることや、お悩みの点などはありますか。

海原： どうして会員を確保するかに悩んでいます。高齢の方が多く、それぞれの理由がありますが、辞めると言われると引き留めるのは辛いですね。だからというわけではありませんが、辞める人の分、前向きに会員を増やせばいいと考えています。きれいな花を作ることと、会の持続が我々の問題点なんです。

松浦： 私は高見地域の緑化の担当ですが、もう一人担当をつくり、さらにもう一人補助を付けています。その担当の人がよく動いてくれるのですが、いつもお願いするのは、メンバー全員が力を持っているわけでも能力があるわけでもない。指導やまとめをしてくれる人を基準に物事を考えないようにということです。自分が100できるからみんなも100できると思わずに、50か60できたらいいじゃないですかと。仕上げることも大切ですが、それ以前に楽しみながら、みんなが和をもってできることが大切だと思います。

田中： 楽しみながらというのは杉井先生のお話にもありましたが、杉井先生がリーダー的な立場で会を上手く運営していくコツというのは何でしょうか。

杉井： 10年やってきて思うことは、毎年植物はそんなに変わらず、同じことが淡々と起こっています。その中で会員が慣れてきたら、関わる度合いを多くするのが大事だと思ってまして、10年前は、私が花を選んでレイアウトをして、植えることを皆さんにやってもらっていました。何年か経つてくると、自分を表現したいと思い始めるので、私が花を選ぶけれども、レイアウトはお任せしますし、最近植物を、自分たちでリストの中から選んでもらっています。少しずつ関わりを多くすることによって、より深く関われるようになります。自分のやっていることを人に見せたいという気持ちがあるんです。植物好きは見せ好き、自慢好きですね。それを満足させるんです。花を選んでもらっていますが、やってみて結局上手くいかないんですよ。そこでまた学習してレベルアップしていけるんです。

田中： 今日、松浦さんのお話に登場した二見さんが来られています。二見さんも活動を指導していただいています。そういった立場で何かお話しいただけるでしょうか。

二見： 私も杉井先生と同じ意見で、一年草をころころ変えるのは経費がかかるため、宿根草をたくさん植えるのは賛成です。方々のアドバイスをさせていただく中で感じるのは、ボランティアとリーダーがいて、行政とコミュニケーションがとれていることが大事だと思います。此花区の女性の担当者も区長も素晴らしい方で、緑に対する意識が高い。それに松浦さんたちの熱意が加わって実を結んで、今の美しいまちづくりがあるのだと思います。

神戸では震災復興で寄付を受けられて、お礼の意味を込めて、ポートアイランドで1年間花いっぱいの活動をしました。150坪くらいの庭を、新聞で募集したボランティア50名ほどと一緒に設計して庭を造りました。そのあとの管理を、ポートアイランドに住んでいる数名のボランティアの人たちが引き継ぎ、今では4000㎡くらいに広がっています。それは、行政とボランティアの熱意が伝わって花開いていったのだと思います。市民がいくら思っても行政のアプローチがないと進みません。

大阪は緑がほんとに少ない。その中で都会に住む皆さんがどれだけ気持ちよく過ごそうと思うか、そんな気持ちのある人たちが集まって活動する中で、行政と



キャッチボールすることが大切です。緑をいやがる人はいません。それが増えることが行政の気持ちを変えていくので、是非頑張ってお二人には指導して行ってほしいと思います。

田中： 熱意があれば行政も動かせるし、ジャスコのグループも動かせるということですね。先ほど杉井先生から宿根草を上手く使うお話がありました。難しいイメージがあるんですが、使い方の秘訣はありますか。

杉井： 宿根草だけの庭は日本には合わないと思います。イギリスのように半年は家の中という環境だと、宿根草が大活躍するんでしょうけど、日本は植物に恵まれているので、宿根草だけでは構成できないと思います。宿根草の中でも花期の長いもの、丈夫なものなどがあります。農家の庭先で使われていたものは宿根草が多いんです。花がなくても葉の色がきれいなものを選べばそんなに難しくありません。昔農家の庭先にあったようなものがキーワードだと思います。

会場より： 私は二期のグリーンコーディネーターで、平成11年ぐらいから花に関わり始めました。この間、個人的には技術は進んでいると思っています。種・苗などを幼稚園や小学校などに無償で渡したり、活動場所には一年草だけでなく30数種類植わっており、接ぎ木・挿し木などもやっています。しかしそこで止まっており、地域の方の理解も得られず、数名でこつこつと25㎡くらいをやっています。

ところが、去年の暮れから行政の協力が得られ、苗木をつくる基地をつくってくれました。若いコーディネーターや緑化リーダーの参加もあり、道が開けつつあります。しかし、通りがかりに「ありがとう。ここを通ったら必ず足を止めて見させてもらっています。」と言ってくれるだけで、種や苗をあげると数回草むしりに来てくれて終わりになっています。

此花区のように、各地区に自分たちで開拓して花を植える活動は、立派という以外に言葉がありません。山田池公園は此花とは違って基地が最初からあって対照的な出発ですが、人材育成を自力でやっているのは本当に立派で、鏡だと感じます。うちはみんな付いてこないなので、その辺を掘り下げていきたいと思っています。

田中： 地域理解を得て活動を更に広げていくための、ヒントや心がけがあればご紹介下さい。

松浦： とにかく無理をしないで、できる範囲内でやっていこうということです。進むばかりでなく引く勇気も必要です。此花区でも種まきの拠点をつくって、苗を各地域へ持ち帰り、ある程度大きくなったら、各地域の小中学校や家庭に配布していましたが、ある地域からは基地が遠くて、輪番制の管理に参加できないということがあり、一時お休みすることにしました。苗づくりができるようになったのだから、各地域でもやろうということにして、みんなでする苗づくりは休んでいます。そのように無理をしないで引く勇気も必要だと思いながらやっています。

海原： 我々もこれから勉強していきたいと思っています。我々よりも、もっと実績のあるボランティアの方々もいらっしゃると思いますので、交流を深めながら、ボランティア活動を継続することに取り組んでいきたいと思っています。



杉井： 私が心がけているのは、どうせやるなら楽しくということ。園芸は遊びですから、自分が楽しくないと楽しさは伝わりません。冬の花壇は何もないと思っていても、地面が見えます。そのようないろんな見方、関わり方があるというおもしろさを伝えた方がいいです。秋の花殻も園芸家は多分摘もうと言います。でも、私はこれが美しいと思っているので徹底的に通すんです。秋の虫食い葉は美しいと感じています。その人の見方がちゃんとしていると伝わるんです。花だけではなく、ものの見方、遊び方を伝えればいいんです。まじめに勉強するのは疲れてしまうので、徹底的に遊んだ方がいいと思います。

田中： 自分が楽しいことは伝わりますよね。自分が楽しくないと楽しくないのが伝わってしまいます。さて最後に、言い残したことがあれば一言ずつお願いします。

海原： 無理をしない、頑張らないで、持続できる活動をとということです。花一つ一つがかわいいですが、それらを寄せることによって更に美しく見える花壇のつくり方、みんな感性が違いますが、誰が見ても気持ちよい空間ができるような花壇づくりをみんなですりたいと思っています。

松浦： たまたま私も色が好きでグリーンコーディネーターを受講させていただきました。この仲間には素晴らしい方がたくさんいらっしゃいます。その人たちにいろんなことを教えてもらいながら、1期生として恥ずかしくないように、私自身が勉強していきたいと思っています。

杉井： 行政の方には、企業が、皆さんが、活躍できる場をつくっていただきたいです。それが最初にあってこそできることだと思います。両者とも志を高く持って、こういうことに意義があると思ってやっているとということが非常に大切だと思います。

田中： 高い志をもっていれば相手に伝わるので、その大事なことを心がけていきたいですね。この講演会が皆さんの地域活動の糧になれば、花博記念協会としてもありがたいと思っています。

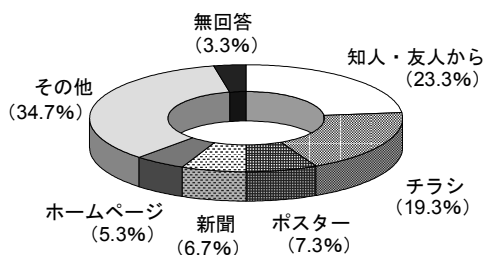
最後に杉井先生、松浦さん、海原さんに、感謝の気持ちを込めて盛大な拍手をお願いします。これをもちましてコスモスセミナー講演会を終わらせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



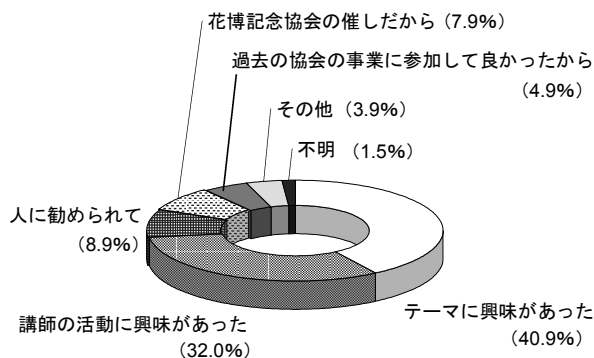
来場者アンケート集計結果

アンケート回収数 140名（来場者数 175名）

問1 この講演会を何で知りましたか？

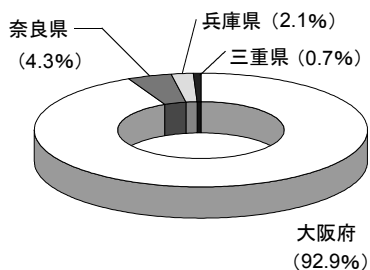


問2 本日参加された動機についておたずねします。

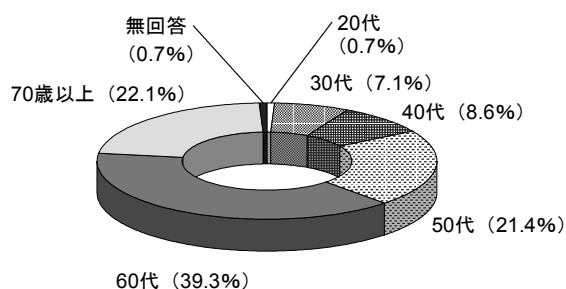


問3 ご自身についておたずねします。

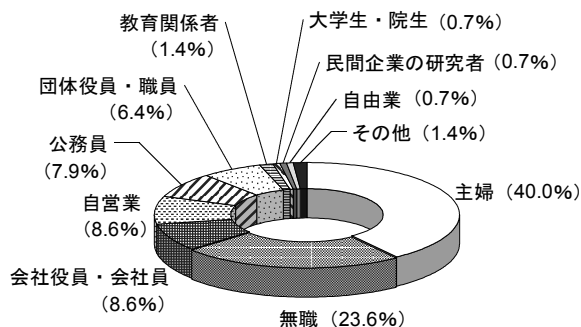
(1) 住所は？



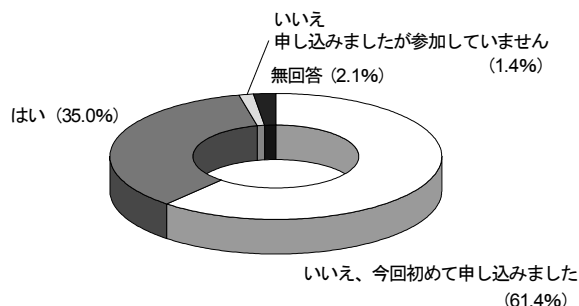
(2) 年齢は？



(3) 職業は？

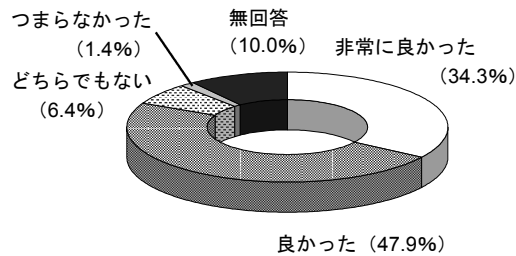


(4) 今までに当協会の事業(講演会やフォーラム)に参加されたことはありますか？

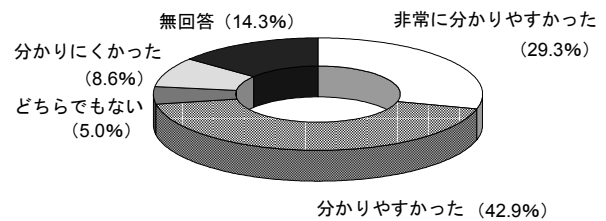


問4 講演についておたずねします。

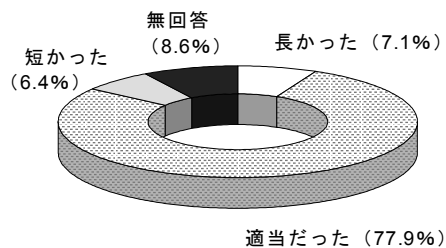
(1) 講演の内容



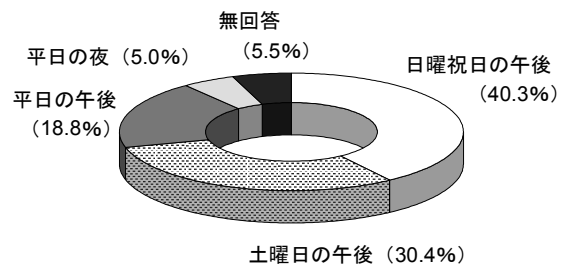
(2) わかりやすさ



(3) 講演時間



問5 いつが参加しやすいですか？



問6 講演会全体についてのご意見・ご感想

(多くの回答を頂きましたので、ここでは集約して掲載しました。)

●講演会について

- ・杉井先生のすばらしい活動には興味があり、楽しみにしていました。
- ・「楽しいから伝わる。楽しさが伝わる。違う視点を伝えてあげる。志は高く」の言葉が良かったです。
- ・アークヒルズの庭園を見たいと思います。「植物を通して表現する」という言葉が印象に残りました。
- ・園芸は遊びだとの言葉で、気持ちを楽にして参加しようと思います。
- ・都会の園芸（自然）はつくっていかねばならないと言われたのが印象に残りました。小さな自宅の庭ですが、これからも頑張って植物を育てていきたいと思いました。
- ・スライドを見ながらの説明は、今までにない切り口の取り組みで感心しました。無理をしないように見せること。人によって感じ方が違う。気持ちの良い室内づくりを皆でやりたい。冬の花壇の魅力を皆に話したい。志を高く持ちたいです。

- ・型にはまった花壇かと思っていましたが、こういう植え方、植物の配置など、勉強になりました。ぜひ参考にしてチャレンジしたいです。
- ・立体的に日本独自の花、蔓ものを取り入れるのが参考になり、植物への強い愛情と工夫することの大切さを感じました。
- ・宿根草を植え、カラーリーフを使う大切さが分かりました。この話を我がガーデニングに生かせるようにします。
- ・都市の緑の再考。子どもと花、植物を考える。日本の植物の再考。今携わっていることに役立てたいです。
- ・とても楽しい講演でした。ボランティア活動に興味があったので勉強になりました。これから植物と関わるが多くなりますが、今日聞いたことを決して忘れません。
- ・花木を通じての人との交流を積極的にされている現状が理解できました。
- ・季節で切り捨てられてゆく花、ボランティアの手薄感などに疑問を持っていたので、手をかけなくても楽しめる植物や、徐々に変わる景色づくりなどの話は力強く楽しく拝聴し、自分の思いももう一度まとめることができました。
- ・素敵な話で、ますます花が好きになりそう。大阪でもクラブをつくってほしいです。
- ・会費を取ってでも自主的にボランティア活動ができているのが素晴らしいです。
- ・与えられた条件のなかで、多くの人が（行政も）知恵や力を出して緑、草草が増えていき、それで安んじた時を過ごせる。これからも続いていくことを念じています。
- ・変な臭いのガーデンにはびっくり。考えたこともありません。子どもたちにももっと関わって欲しいです。
- ・杉井先生の広い場所での花壇と、地域で限られた面積での花壇に限界があると思います。真冬、真夏の作業は厳しいですが、その分、美しく咲いた姿を見ると心がいやされます。
- ・毎日が花の手入れ、花壇に手を伸ばすことで生き甲斐に感謝。今日の花のある暮らしは素晴らしかったです。いろいろな花がきれい、美しい設計も勉強できました。これからもいい発信をお願いします。
- ・今の季節の花の組み合わせで寄せ植えを実技で見たかったです。
- ・街の中の花のある暮らしにしては、公園、広いところの話であって、街には土も少なく、街のなかでどうすれば花を楽しめるかという具体的な話やスライドがほしかったです。街路樹の下、道路の脇少しの土を活かして楽しめるものを思っていたので残念。

●ディスカッションについて

- ・大変参考になり楽しかったです。
- ・自分が楽しいのが大切など、メンバーとの関わりなどについて勉強になりました。
- ・素晴らしい話で元気が出ました。我が家の庭にも花を咲かそうと思います。
- ・区民を巻き込んでの活動は、力、広がりなど参考になりました。今後、官庁と話し合っ
て区役所の前に寄せ植えをしてみたいと思います。
- ・事例発表の二人の方が理解しやすく、我々の活動の参考になりました。動くことはで
きるが資金と場所がありません。私の活動力を市が利用して欲しい。
- ・「花の楽校」って初めて知りました。またして欲しいし海原さんにも頑張ってもらい
たい。

●全体の印象

- ・大阪のまちが少しでも美しくなるといいと思います。
- ・いろんな角度からの話を聞いて良かったです。
- ・都(ビルの屋上)、府(公園)、市(まちなか)、それぞれ花や緑を通しての、いろいろな
活動の紹介は参考になりました。
- ・年配の人ばかりでびっくりしました。東京方面へ行くと、大阪に比べて緑が多いと思
うのに、世界の都市から見たらとても少ないとすることに驚きました。ということは、
大阪は悲惨ですね。まず個人から頑張ろうと思いました。
- ・名のない花が好き。小さい庭だが参考にしたい。
- ・大阪でも参加型のセミナーやボランティアが多くあればよいと思います。
- ・行政とボランティアの関わりは、もっとアピールしないといけないと思います。単な
る労働力になりたくない。ガーデニングボランティアグループのリンクづくりを
期待します。

●企画への意見

- ・また講演会を企画して下さい。
- ・講演時間はもう少し短めで、事例紹介や意見交換にもっと時間を割いたら？ 全体は
やはり2時間。
- ・大阪だけでなく、会場を京阪神の都市でも開催してはどうですか。花と緑の関心のあ
る団体のネットワークができると思います。
- ・閉会の時刻は守れるよう、余裕を持った予定を立ててほしい。